

上北沢に縄文・弥生・古墳時代の遺跡が！

平成19年から21年にかけて行われた松沢病院構内の研究所建設のための発掘調査で、縄文<中期後半～末葉>(七基)、弥生(二基)、古墳(一基)の住居跡などの遺構や石器・土器、そして更に中世・近世の遺構・遺物などが同時に出土しました。この地は北沢川の源流域で、以前から「殿竹遺跡」として縄文遺跡の存在が知られていましたが、今回の弥生・古墳時代の住居跡の発見は、北沢川上流部では初めてのことで特筆されるものです。

又、ここで出土した縄文期の石斧や石皿に、群馬、埼玉県境で産出する緑泥片岩が使われ、その加工片も残っていて、その地方との交流の痕跡がみられます。

更に、13～4世紀の中国竜泉窯系で作られた青磁小壺の破片が見つかっています。また、17世紀前半と見られる瀬戸・美濃産の天目茶碗の一部も出土しています。これらは、そのような品を手にする人物が、かつてこの土地に居たことを示していて興味をそそられます。

[資料提供・監修 : 世田谷区教育委員会]
 [参考: 「殿竹遺跡(第二次調査)」
 2010年7月30日 東京都埋蔵文化財センター発行]



縄文六号住居跡(直径3.6m円形)約4000年前



弥生二号住居跡(一辺4.5m方形)約1800年前



古墳時代住居跡(4×3.5m長方形)約1500年前



「青磁小壺」断片
13~14世紀 中国竜泉窯系製



「天目茶碗」断片
17世紀前半 瀬戸・美濃製

